公益財団法人国際文化フォーラム

# 2018（平成 30）年度　事業計画書

TJF

■「学校のソトでうでだめし」プロジェクト

学校とは違った場所で出会った仲間や大人たちと表現・創造活動に取り組むことを通して、高校生が自分の価値観や感じ方を知り、思考の幅を広げていくきっかけを提供することをめざします。

2017 年度は、舞台衣装家と「詩の世界に立つ自分が着る服をつくる」という新たなプログラムを実施しました。

2018 年度は、文化圏を越えて混ざりあい新しいものが生まれてくる「クレオール」な音楽をテーマにした活動を行います。越境することの面白さやダイナミックさを参加者に感じてもらいたいと考えています。このプロジェクトでは毎年、新しいジャンル、テーマを設定し、これらを蓄積して「学校のソトの学びと遊びの場」ができあがっていくことをめざしています。

参加者募集については、学校を通じての広報が中心でしたが、高校生や保護者に直接情報が届くよう、インスタグラムや twitter の活用を試みます。

■多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿」

多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿」を本年 3 月 26 日（月）から 29 日（木）まで八王子の大学セミナーハウスで実施します。

多言語演劇の企画・製作・構成・演出を手がけている田室寿見子氏をコーディネータに迎え、さまざまな文化的ルーツを持つ高校生と多様なことばや文化に興味を持つ日本人高校生計 25 名が、ことばや身体を使ってコミュニケーションゲームやダンス的要素を取り入れたムーブメント活動を行い、「一人ひとりの個性を尊重し、多様性に富み、創造力を育む社会」を創れるようになることをめざします。

2018 年度は夏休みもしくは春休み期間に実施します。

■好朋友日本文化体験の場の活用促進

中国で日本語を学んでいる生徒たちが今の日本を体験し、日本語、日本文化への関心を高め、理解を深めるとともに、日本人とつながる場が、黒龍江省ハルビン市朝鮮族第 1 中学、遼寧省大連市第 31 中学、上海市工商外国語学校、広東省中山市外国語学校の 4 つの学校の中に完成しました。2018 年度は、4 校の教師が体験の場にある実物教材を使ったり身に着けたりすることにとどまらない活動を考えるきっかけとして、二つの事業を実施します。

一つは、「私たちの学校の制服をデザインしよう」をテーマに、日本語の授業に「制服をデザインする」活動をどのように取り入れるかを考える教師研修と、実際に授業を行って、生徒たちがつくった制服のデザインを日本語で発表する学習発表会の二段階の事業です。

二つめは、2017 年度に作った現地の日本企業や留学生とのネットワークを生かした、日本人とつながる活動です。体験の場に畳を納入した前田畳製作所による「畳を知るワークショップ」は 4 カ所全部で実施を予定しています。また、年度内に 4 校の教師の経験交流会を 2-3 回開催し、活動の多様化と充実が図られるようサポートしていきます。

■りんごをかじろう

これまで、新しいことばや文化に触れるプログラムとして隣語講座、世界の言語と文化を知ろう、りんごをかじろう、がありましたが、これら全体の事業名を「りんごをかじろう」とします。

学習の動機づけを高めることを目的とした「隣語講座」は、英語以外の外国語を開講している高等学校にプログラム提供の場を求めます。講座には、言語の背景にある文化にも造詣の深い専門家や、高校時代に第二外国語を学習した大学生を招いて、ことばの学びは楽しいことを受講した生徒たちに感じてもらいます。

それぞれの学校で第二外国語の履修者が増加することは「ことばと文化」に触れる人が増えることにつながります。すでに東京都立東久留米総合高等学校、拓殖大学第一高等学校から講座実施の依頼がありました。日韓校長交流でできたネットワークも活用して、2018 年度は 3 校での実施を計画しています。

在日本中国大使館教育部、東京韓国教育院、ゲーティンスティトゥートの協力を得て、中国語、韓国語、ドイツ語の講座の開講を予定していますが、その他の言語の促進を担う機関との協力も模索し、対象言語を拡大していく予定です。

## ■日露交流プログラム

TJF の日露交流プログラムは 2018 年度で 4 年めとなります。日露双方でロシア語教育、日本語教育の現状についての理解が深まり、それぞれの拠点校を定めることができました。同時に、拠点校で互いのことばを教えている日露の教師間の個人的交流までも深めることができました。

2018 年度は、この交流をそれぞれの授業に生かしてもらうことをめざし、日露の教師 7 組が、それぞれの授業に交流を取り入れる交流学習に取り組みます。日露のペアは、11 月にサンクトペテルブルクで開催予定のロシアの日本語教師研修会に参加し、実践報告を行って、交流学習のさらなる充実をめざします。

# 2018 事業一覧及び各事業計画概要

ア．　国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

1.「外国語学習のめやす」活用の促進（定期事業）
2. 社会変化に対応し学びをデザインする教師研修（定期事業）
3. 「学校のソトでうでだめし」プロジェクトの実施（定期事業）
4. 「りんごをかじろう」講座の実施（定期事業）
5. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

イ．　ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業

1. 日本の文化と人びと紹介サイトの運営（定期事業）
2.「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたウェブサイトの運営（定期事業）
3. 中国への図書・教材・資料の提供（定期事業）
4. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

ウ．　互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業

1. 日韓・中高生の交流プログラムの実施（定期事業）
2. 日韓の校長交流プログラムの実施（定期事業）
3. 日露教師・生徒交流プログラムの実施（定期事業）
4. 多言語・多文化交流プログラムの実施（定期事業）
5. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

エ．　広報事業

1. TJF の事業の広報（定期事業）
2. ネットワークの構築と情報収集（定期事業）

2018年度事業一覧

| | 事業名 | 実施時期 | 実施場所 | 事業内容 | 関係機関/団体 |
|---|---|---|---|---|---|
| 公1 国内外の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業<br>132,176,039円（内、公益目的事業共通費用 82,268,957円 ※） | | | | | |
| ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業 13,477,536円 | | | | | |
| 1 | 「外国語学習のめやす」活用の促進<br>1,409,650円 | 通年 | 各地 | 外国語学習のめやすマスターティーチャーが企画し、TJFが共催者としてサポートするウォーミングアップ研修やめやすに関する研究活動をサポートする。 | 共催：めやすマスターティーチャー |
| 2 | 社会変化に対応し学びをデザインする研修<br><br>4,467,684円 | ①8月②8月ほか<br>③時期調整中 | 大阪、沖縄、東京、北海道など | 小中高校の教員を対象に、探究学習、プロジェクト学習、評価をおもなテーマにすえた研修を行う。<br>①當作靖彦カリフォルニア大学教授による評価の講義とワークショップは、沖縄県教育委員会で6年め、豊中市教育委員会で3年めを迎えシリーズ化されている。<br>②北海道でリーダー的役割を担う外国語教員向けに、地域の学校教育現場の実情にあい、かつ専門性の高い内容のワークショップを行う。<br>③3年めを迎える稲垣忠東北学院大学教授の探究学習とプロジェクト学習のワークショップは、30人規模の入門編と10人以下の実践者向けの二つのコースを設ける。そのほか、教師自身が発信力を身につけるためのCMワークショップなども引き続き実施していく。<br><br>TJFが単独主催するワークショップについては、youtubeなどの動画配信サービスを使って遠隔地の教員向けに研修を同時中継する試みも行う予定。 | ①共催、協力：沖縄県教育委員会、豊中市教育委員会ほか |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 「学校のソトでうでだめし」プロジェクトの実施<br><br>2,020,356円 | 通年 | 東京ほか | 高校生が、学校や家庭、塾では出会わない高校生や大人たちと関わりながら、表現・創造活動に取り組むことを通して、自分の価値観や考え方、どのような感じ方をするのか知り、さらに視野や思考の幅を広げていくきっかけのひとつとなる活動の場を提供する。<br>アート、演劇、音楽、文学、広告、映像など、表現や創造を仕事にしている大人たちのスキルや知恵、仕事を進めていくプロセスなどを、高校生が参加できる活動にデザイン、事業化し、プログラムを増やしていく。最終的には複数のプログラムを展開する「学校のソトの学びと遊びの場」をつくる。<br>2018年度は音楽をテーマとした新たな内容のプログラムとCMづくりのワークショップの実施を予定。参加者は1回10-15名程度を想定している。<br>これまではおもに学校を通じて広報を行っていたが、高校生や保護者に直接情報が届くよう、インスタグラムやtwitterの活用を試みるほか、美術館や博物館、図書館など地域の公共施設への協力も求める。 | |
| 4 | 「りんごをかじろう」講座の実施<br><br>1,890,192円 | 通年 | 東京、静岡ほか | ①中高校生向け韓国語学習の場づくり<br>駐日韓国大使館韓国文化院との中高生のための韓国語講座（世宗学堂）の共催と拓殖大学第一高等学校、静岡県西遠女子学園での韓国語講座を継続実施する。<br><br>②中高生向け隣語学習のきっかけづくり<br>2018年度は、第二外国語の科目を開設している東京の学校の協力を得て、さまざまな言語や文化の魅力を伝えるオリエンテーション講座を実施する。なお、2018年度は、中国語、韓国語、ドイツ語を対象に3校程度での実施とする。<br><br>③一般向け講座<br>高校生に限らず、教員、保護者や一般の人たちも対象に、さまざまなことばや文化にふれる講座を実施する。 | 共催：駐日韓国大使館韓国文化院（①のみ）、東京韓国教育院、神奈川韓国綜合教育院（韓国語関連、申請中）<br>助成：漢語橋基金（③の中国語関連、申請中） |
| 5 | ネットワークの構築と情報収集<br><br>3,689,654円 | 通年 | 各地 | アの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。<br>また、スタッフが学んだり、新しいネットワークをつくれるような勉強会を実施する。 | |

| イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業 | | | | | 12,975,394円 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 日本の文化と人びと紹介サイトの運営<br><br>4,844,254円 | 通年 | TJFウェブサイト | ①くりっくにっぽん<br>「My Way Your Way」は、すでに扱ったテーマ（「伝統は新しい」「ことばの力」など）のコンテンツを増やす。また、英語圏向けメールマガジンの発行、中国のSNS微博公式ページ「点击日本」で更新記事の配信、韓国の高校日本語教師ネットワークのHPで更新情報やコンテンツを使った授業案の掲載などを通じて活用を促進する。<br><br>②ときめき取材記<br>主に留学生が「My Way Your Way」と同様、ひとつのテーマを決め、関係する人にインタビューして、まとめた記事を掲載し、多様な視点で日本文化を発信することをめざす。この取り組みに参加する教師のネットワークをつくり、すでに実施した教師から新しく参加する教師へアドバイスを行う体制をつくる。 | |
| 2 | 「外国語学習のめやす」活用の促進をめざしたウェブサイトの運営<br><br>560,000円 | 通年 | TJFウェブサイト | 外国語学習のめやすマスターティーチャーや「めやす」的実践にチャレンジした教師、ウォーミングアップ研修の参加者などを中心に、「めやす」を活用した授業案の掲載を継続する。 | |
| 3 | 中国への図書・教材・資料の提供<br><br>5,770,740円 | 通年 | ①大連、中山、上海、ハルビン<br>②中国各地 | ①好朋友日本文化体験の場の活用促進<br>2017年度は、大連、中山、上海、ハルビンの学校内に日本文化を体験したり理解を深めるための「好朋友日本文化体験の場」への教材・教具の寄贈が完了し、体験の場での活動に協力してくれる地域在住の日本人とのネットワークづくりがスタートした。2018年度は、体験の場を利用した活動を促進するため、体験の場を担当する教師が参加する、制服をテーマとした活動を学ぶ研修と成果発表会を大連で実施するとともに、日本人のネットワークを生かした活動の実施をサポートする。<br><br>②中国の大学への図書寄贈<br>講談社より発行図書の寄贈を受け、（公財）日本科学協会の事業に協力して、中国で日本語専門コースを持つ大学に贈呈する。 | ①助成：（公財）三菱UFJ国際財団（申請中） |
| 4 | ネットワークの構築と情報収集<br><br>1,800,400円 | | | イの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。 | |

| ウ.　互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業 | | | | | 18,852,124円 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 日韓・中高生の<br>交流プログラムの実施<br><br>5,374,194円 | 8月7-12日 | 韓国・ソウル市 | 日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生の交流プログラムの第7回を実施する。日韓ともに全国の中高校生を対象に募集する。定員は昨年度に続き各20名を選考する。<br>会場は、これまでとは別のソウル市内のユースホステルの使用を、発表会の会場は、共催者の秀林文化財団が運営する秀林アートセンターで開催する予定。<br>プログラム中は、ダンス創作活動、買い物活動など、中高校生が関心をもつ活動を行う。<br>日本側参加者は往復国際航空運賃、宿泊費など実施費用の一部を負担、韓国側は会場までの往復交通費を負担。ただし、遠方からの参加者の交通費の一部を補助し、遠方からの参加を促す。 | 企画・共催：(財)秀林文化財団<br>共同実施：秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会<br>助成：(公財)日韓文化交流基金(申請中)<br>後援：国際交流基金ソウル日本文化センター(予定)<br>協力：高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク<br>輸送協力：ANA |
| 2 | 日韓の校長交流プログラムの実施<br><br>3,106,180円 | 8月4-7日 | 韓国・ソウル市 | ①日本の校長の韓国派遣<br>東京と神奈川の韓国教育院の協力を得て、韓国語教育を実施している中高校の管理職を韓国ソウルに派遣するプログラムの4回めを行う。これまで参加した学校の中で5組が姉妹校を締結し、交流活動を開始している。2018年度も引き続き、これまでの参加者からの広報に加え、東京都教育庁を通して参加者を募っていく。<br>ソウルでは日本語教育を実施する高校を訪問し、教師・生徒と懇談するとともに、ソウルの大学に留学中の日本人大学生や、韓国各地の日本語教育実施校の管理職、日本語教師との交流を通じ、学校間交流と相互の言語教育に取り組むきっかけづくりをする。<br><br>②韓国の校長の日本招聘<br>日韓文化交流基金がJENESYS事業の公募を行う場合には申請し、①の事業に参加した韓国側の校長を日本に招聘し、学校間交流につなげていく。 | ①共催：東京韓国教育院、神奈川韓国綜合教育院、国際交流基金ソウル日本文化センター(一部共催)<br>助成：(公財)双日国際交流財団(申請中)<br>輸送協力：ANA<br>②共催：(一社)国際フレンドシップ協会(予定) |
| 3 | 日露教師・生徒交流プログラムの実施<br><br>5,155,740円 | 11月 | ロシア・サンクトペテルブルク | 2015年度から取り組んだ日露交流プログラムで、互いのことばを教えている日露の教師間の交流が深まった。この交流を一過性に終わらせないために、日々の学習に取り入れることで、ことばと文化の学びを深め、最終的に学校間の交流に発展させることをめざす。そのために、日露のペアで交流学習のプロジェクトに取り組んでもらい、日本側教師とその交流相手をロシア・サンクトペテルブルクに派遣し、現地のほかの日本語教師も参加する報告会を行い、共有する。その機にあわせて、ロシアの日本語教師、日本のロシア語教師を対象とする合同研修も実施する。 | 助成：(一社)尚友倶楽部、(公財)東芝国際交流財団(申請中) |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 多言語・多文化交流プログラムの実施<br><br>3,616,010円 | 8月もしくは2019年3月 | 東京 | 多様なことばと文化を背景に持つ若い世代が、協力して「一人ひとりの個性を尊重し、多様性に富み、創造力を育む社会」を創れるようになることをめざし、さまざまな文化的ルーツを持つ高校生と多様なことばや文化に興味を持つ日本人高校生が参加する合宿の2回めを実施する。期間は3泊4日、参加者は25名程度を想定している。<br>昨年度に完成した、多様な個性を持った参加者が、動作とことばから織り成すパフォーマンスを創りあげる過程で、コミュニケーション力、表現力、協働力、自己肯定感を身につけられるプログラムに基づき実施し、専門家とともにさらなる改善を図る。 | |
| 5 | ネットワークの構築と情報収集<br>1,600,000円 | | | ウの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。 | |
| エ. 広報事業 | | | | | 4,602,028円 |
| 1 | TJFの事業の広報<br><br>4,122,028円 | 通年 | TJFサイト、メールマガジンほか | ①事業報告書の作成<br>2018年度も、見てわかる事業報告書『CoReCa』を発行する。2018年度は特集のテーマを「多様な学びの場」とする。<br><br>②デジタル媒体を使った広報<br>メールマガジン(月2回発行)やウェブサイト、Facebookを通じてTJFの事業を広く発信していく。 | |
| 2 | ネットワークの構築と情報収集<br>480,000円 | 通年 | | エの事業に関連するセミナー等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集を行い、広報事業の充実につなげる。 | |

※公益目的事業に係る費用（給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など）